

2019 連合 平和行動 in 沖縄

「語り継ぐ戦争の実相と運動の継続で恒久平和を実現しよう」

今年も「沖縄慰霊の日」に合わせ、6月23日（日）から24日にかけて「2019 連合 平和行動 in 沖縄」が開催され、太平洋戦争の最大の激戦である沖縄戦の悲惨な戦争を語りつぐため、地方連合や構成組織から総勢930人らが沖縄に集結しました。

連合岐阜からは10名が参加し、連合愛知、連合三重からの参加者とともに3県合同で行動を共にしました。出発となる中部セントレア空港では3県合同の結団式を開催し、連合三重副会長の松山団長の挨拶で平和行動がスタートしました。

【1日目】

那覇空港に到着後、沖縄料理の昼食をとり、琉球王国の王城の「首里城」に向かいました。

沖縄の定番スポットである「正殿」前で記念撮影。この正殿は琉球王国最大の木造建築物で、日本と中国の様式を取り入れた和漢折衷の琉球独自の様式がみられる特徴的な建造物でとても圧巻でした。晴天であれば素敵な琉球レドが映えるそうです。



平和オキナワ集会

首里城を後にして、集会に参加するため沖縄空手会館へ移動しました。

「語り継ぐ戦争の実相と運動の継続で恒久平和を実現しよう」をテーマに集会がスタートしました。オープニングとして、空手発祥ともいわれる「沖縄空手型」が披露され、攻防一体となった無駄のない技が完璧なまでに構築されていました。



第一部：基調講演 「他国地位協定調査について」



基調講演は、沖縄県知事公室基地対策課の島袋秀樹調査班長から、日米地位協定は戦後70年以上も一度も改正されていないことや、ドイツ、イタリア、ベルギー、イギリスの国内法の違いを含め延べられ、県内では相次ぐ事件や事故、県外でも米軍機による事故が発生している中、日米地位協定の見直しを求める声が高まっている現状の課題の説明をいただきました。

第二部：平和式典

冒頭、慰霊者に対し参加者全員で黙祷を行いました。主催者である相原連合事務局長の挨拶では、連合の4つの平和運動の皮切りとなる沖縄の地に全国各地から多くの方が参集したことへの御礼と、「戦争の悲惨さを次の世代に語り、繋ぎ、二度と悲劇を繰り返さないことを固く誓い合いたい。ここで学び感じたことを地域や職場に持ち帰り、今後の運動として展開していただくことを強く期待する。」と述べました。



連合沖縄の大城会長の挨拶では、「沖縄では新たな基地がつくられようとしている。県民投票で圧倒的な反対の民意を示したが、安倍政権は民意を無視している。沖縄の現状を知ってほしい」と述べられました。

その後、連合広島へのピースリレー、そして連合沖縄女性委員の宮城さんによる「沖縄からの平和アピール(案)」が読み上げられ、参加者全員で恒久平和の実現に向けて誓いました。

夕食懇親会は連合愛知、連合三重、連合岐阜の3県合同で、沖縄の舞踊を鑑賞ながら沖縄料理をいただきました。それぞれ自己紹介をし、産別を超えた交流会となりました。



【2日目：ピースフィールドワーク】

糸数アブチラガマ、ひめゆりの塔、魂魄の塔、平和記念公園を見学しました。ピースガイドとして、連合沖縄青年部の川田兄弟が案内してくれました。兄弟でペアを組むは初めてとのこと。お兄さんは8回目のベテラン。弟さんは今回で3回目だそうで、まだまだ緊張気味な弟を横でフォローする兄弟愛が微笑ましかったです。



糸数アブチラガマ



「糸数アブチラガマ」は沖縄本島の南部にある自然洞窟(ガマ)です。ガマとは自然にできた洞窟のことを沖縄では方言でガマと言います。この糸数アブチラガマは沖縄戦時、もともとは糸数集落の避難指定壕でしたが、日本軍の陣地壕や倉庫として使用され、戦場が南下するにつれて南風原陸軍病院の分室となったガマです。軍医、看護婦、ひめゆり学徒隊が配属されており、全長270Mのガマの中に600人以上の負傷兵で埋め尽くされていたそうです。数日前からの雨の影響からガマの中は少し蒸し暑く感じました。ガマの中では懐中電灯を消して、ここで過ごした人々が経験した暗闇を体験しました。

ひめゆりの塔

ひめゆりの塔は沖縄戦で亡くなったひめゆり学徒の鎮魂のため建立されました。ひめゆり平和

祈念資料館では、沖縄戦で亡くなったひめゆり学徒227名の遺影や遺品が写真が部屋中に飾られ、胸が苦しくなりました。修学旅行生も多く見学に訪れており足を止めて展示物に見入っている姿が印象的でした。

魂魄（こんぱく）の塔



魂魄の塔がある糸満市は沖縄戦において北から進攻してくる米軍に対して多くの日本軍と住民が追い詰められた場所です。おびただしい戦没者（軍人、住民）の遺体が戦闘終結後もそのまま残されていたのを、地域住民が周辺に散乱していた遺骨を納め魂魄の塔が建立されました。

平和祈念公園には全国各地の慰霊碑もありました。

※「魂」はたましい、「魄」は浮遊霊の意味

平和祈念公園

平和祈念公園がある摩文仁は、沖縄戦最後の激戦地となり犠牲者は1200人近くともなったそうです。平和祈念公園から見える摩文仁の崖では、追い詰められた住民たちが、米軍に捕まるより飛び降りることを選択した岸壁を見ることができました。資料館では、戦争体験者多言語証言映像を観ることができました。多くの人が足を止め見入っていました。



ピースフィールドワーク全ての行程が終わり、帰路の車中、ピースガイドの川田（兄）さんから、米軍基地問題以外にも沖縄県が抱える様々な課題があると話してくれました。沖縄県の最賃の低さや、離婚率の高さなどを挙げ、離婚が原因で非行に走る子供が多く、同じ価値観の中で早期に結婚し、そしてまた離婚…と負のスパイラルである現状があること。自身の親もシングルマザーで4人兄弟を育ててくれたことなど聞かせてくれました。川田（兄）さんは労働組合の活動を通して、恒久実現の平和の実現と同時に、沖縄県の様々な課題にも取り組んでいきたいと熱意を込めて話してくれました。



沖縄県庁に到着し、参加者全員で「日米軍基地の整理・縮小」と「日米地位協定の抜本的な見直し」を訴えながら国際通りをデモ行進し、二日目の行程を終えました。



【事務局より】

参加者の皆様のご協力により、無事に平和行動を終えることができました。本当にありがとうございました。今回の平和行動で感じたことを、職場やご家族、友人の方々にぜひ聞かせてあげてください。そして、広島、長崎、根室の平和行動にもぜひご参加ください。